

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2795700042		
法人名	医療法人和幸会		
事業所名	グループホームたわら		
所在地	大阪府四條畷市田原台4丁目8-6		
自己評価作成日	令和2年3月8日	評価結果市町村受理日	令和2年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年4月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入浴、レクリエーション、外出、散歩、行事
----------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、四条畷市の公募に応じ開設して5年経ち、医療法人和幸会グループの1つとしての知名度・利用率が定着して来ている。管理者以下の職員が、地域密着型の認知症対応型共同施設での経験が浅いとしながらも、他の事業所での業務経験との違いを認識し、認知症ケアの本質ともいえる個別対応のやりがい目覚めて、利用者の暮らしの支援に日々努力している。利用者の脚力や腕の強弱、趣味や嗜好、得手不得手など、生活歴からの個人差を見極めながら、レクリエーションの工夫や日常の役割・楽しみごとの支援に努めている。常勤職員と介護福祉士の割合が高い職員体制からして、今後、法人組織に安住することなく、「グループホームたわら」として、認知症ケアの専門科集団としての自負を持ち、地域高齢者福祉の支柱として貢献し続けたいとしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作り、スタッフルームに掲示し、定期的に職員と話し合い、実践につなげている	開設時に、管理者を中心に作成した理念「利用者の気持ちに寄り添い笑顔溢れるホームを目指す」と、「1.利用者を尊重しその立場に立ったケア 2.残存機能を活かした生活支援 3.希望する自分らしい生活支援 4.家庭的な環境を提供 5.安心安全に暮らせる環境を提供 6.地域との交流に努める」の方針の下、週1回のカンファレンスで確認し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	1か月に1回認知症カフェを行い、地域の方と交流している	近在の小学校の夏祭りに参加する他は、同敷地内の介護老人保健施設(老健)での季節行事やボランティアによる催しに参加して、地域住民と交流する機会を得ている。同建物1階スペースでの地域包括支援センター主催の認知症カフェには、利用者の状況に応じて極力参加するよう心掛けている。地域との積極的な交流は、今後の課題である。	理念と基本方針に基づいたケアと生活支援を、グループホームでの暮らしの枠内だけで完成させるのではなく、利用者の今までの暮らしが、地域との繋がりや地域の支援の中で続けられることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェなどを通じて、地域の方に向けて発信している	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、メンバーからの意見を聞いて、サービス向上に生かしている	常時の会議参加者は、民生委員・市担当職員・地域包括支援センター職員・管理者で、家族1名の参加は不定期である。会議内容は、利用者の現状と行事の結果・予定の報告が主で、他メンバーによる情報交換を行っている。	認知症ケアの実践事例、例えばヒヤリハット・事故や対応困難と成功事例などと、外部評価の実施結果と目標達成計画の報告と話し合いなど、会議内容の工夫を望む。また、参加人員の拡充(地域住民・家族など)について一層の努力を期待する。加えて、会議録の家族配布を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の高齢福祉課と定期的に連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築いている	行政との業務上の連携・連絡などは順当である。市担当職員と地域包括支援センター職員が運営推進会議へ参加しており、各種情報交換も十分である。地域包括支援センターとは、利用者受け入れなどで緊密な協力関係を保持している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努めており、職員も理解して取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針(2018年5月31日作成)を法人の老健と共有し、月1回開催の適正化委員会に参加している。全職員は年2回の研修を受け、拘束についての理解を深めている。玄関は防犯上施錠され、各ユニット出入り用のエレベーターは、安全のためテンキー操作となっている。閉塞感を緩和するため、周辺の散歩に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に向けた研修をしており、職員が虐待しないように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通して学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、家族に十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ねている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族から要望や意見を聞く機会を設け、運営に反映させている	毎日、週1~2回、必ず月1回と、夫々の家族の訪問時に合わせて面談し、意見や要望・苦情を聴取して運営の改善に努めている。男性利用者のトイレ使用について、女性利用者からの苦情に対応した事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1週間に1回カンファレンスを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている	カンファレンス以外に、日常の申し送り時などに職員の気付きや提案を聴取し、現場本位に反映させている。月1回の本部会議に上程する事例は、速やかな対応に努めている。入浴担当者のシフト調整で、業務の偏りを改善した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修を受ける機会の確保や働きながらのトレーニングしていく事を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいる		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け、安心出来る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族より聞き取りをして、不安、要望等に耳を傾け、関係作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人と家族が必要としている支援を見極めて、他のサービス利用も含めた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と本人の絆を大切にしながら、本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している	1名の利用者のみ、毛染めのために馴染みの美容室へ家族が同伴している以外は、殆どの方は、場所や対人についての馴染みを表出しないが、散歩や入浴時の会話で聞き出すように努めている。法人の老健での合同行事に参加する時に、顔見知りに出会う機会があり、双方で笑顔が交わされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切に、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位になるよう検討している	業務中での気づきから利用者の意見・情報を収集し、カンファレンス時や申し送り時に確認・共有して、個別ケアに繋げている。できる・できない・やりたい・やりたくない・得手不得手などへの観察力・洞察力の向上に努めたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状把握をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に沿った介護計画を作成している	日常の業務記録(支援経過表・医療関係など含む)、3ヶ月毎のモニタリングを基に、担当職員と計画作成担当で介護計画を作成している。家族訪問時に、利用者の健康状態・生活状態報告書を口頭で説明して手渡している。人員配置上、サービス担当者会議は実施していない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入しており、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を把握して、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人と家族等の希望を聞き、納得が得られたかかりつけ医と関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する同法人の協力医療機関の内科受診に月1回職員が同行する他、歯科は月1回の訪問検診があり、治療の必要時には職員が対応している。他の専科については、同法人の医療機関(産婦人科以外全種)の受診は家族対応を基本とするが、車で10分ほどの送迎のみ職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は情報や気づきを職場内の看護師に伝えて相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、出来るだけ早期に退院出来るように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しそうな利用者には早期に話し合いを行い、事業所で出来る事を十分に説明して、チームにて支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた対応については、契約時に看護師同席の下に、事業所で出来ることの限界を利用者・家族に説明し、現状の体制では看取りは出来ないこと、緊急時には協力医療機関に緊急搬送を行うことの詳細を得て、同意書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、定期的に訓練を行い、実践力を身につけるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。	年2回の訓練(夜間想定含む)は実施されている。各種災害についてのマニュアルも整備されているが、それに即した現場本位の訓練は今後の課題である。地理的に地域住民との協力体制は取りにくい状況にあるが、同敷地内の事業所2ヶ所との連携体制で十分としている。備蓄品は、スペース上、法人の老健に一括保存されている。	火災・水害については憂慮しない状況だが、地震については想定外の事象が発生し得るので、マニュアルの細目について、当事業所の利用者・職員・構造などを念頭に精査して見直し、訓練の実施と成果の検証を望む。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、丁寧な言葉かけが出来るように指導し、対応している	法人の老健と共に年1回の接遇研修に参加し、出席出来なかった職員は報告書を閲覧している。利用者は名字にさん付けで呼び、利用者の嫌がることはしない、したいことを優先する、を基本に対応している。利用者への言葉掛けで気が付いた点は、臨機応変に管理者が注意することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の意向をくみ取れるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先してしまう事が、時々あるが、どのように過ごすかの希望は聞くようにして支援するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように配慮、支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備に関しては、職員が準備する事が多く、利用者には片づけをしてもらっている	業者から2日に1回チルド状態(生ものは冷凍)で食事が配達され、事業所で炊飯と盛り付けをして提供している。利用者は後片付けに参加している。雑祭・父の日・母の日・誕生日会には手作りのおやつパーティーを行い、10月のたわら祭りとクリスマスには家族も参加して、法人の老健と合同で食事会を開催して楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を確認し、栄養バランス、水分量が確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、職員と情報を共有して、トイレでの排泄や自立に向けての支援をしている	排泄パターン表を基に、利用者個々に沿って対応する職員を替えたり、時間を置いたり、仕草などで声掛けのきっかけを工夫し、さりげなく誘導することで、殆どの利用者がトイレでの排泄が出来ている。夜間は1時間毎に巡回し、失禁の人にはパッド交換をしている。利用者は、昼夜共に自立に向けた支援を受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、飲食物の工夫や運動の働きかけ、看護師との相談して、予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては日中に行い、出来るだけ本人の希望に沿っておこなっている	事業所が力を注いでいる入浴は、週3回午前中に4・5名ずつと比較的回数が多く、入浴により清潔保持だけでなく、皮膚の異常を発見し、保湿に気を付けることで風邪をひきにくくする効果が得られているとしている。入浴拒否の利用者もいるが、同姓介助したり誘導の仕方を工夫している。入浴剤は個人負担で使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり安心して入眠出来るように、寝具や温度管理して、気持ちよく入眠出来るように、精神面での支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や用法、副作用や用量については各職員に申し送りして、服薬の支援と症状の変化に注意して行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が楽しく暮らせるように、レクリエーションをいろいろしており、一人ひとりが楽しめるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩や外出するように努めている。家族の人にも協力して貰っている	外出は2・3日に1回、天候や利用者の身体状況により法人の敷地内を散歩し、比較的元気な人は公園やスーパーまでの買い物に出掛けている。ドライブには日割りで3名位でグループを作り、バラ園や山麓公園・花見などに出掛け、紅葉時には喫茶店へ立ち寄って楽しみを倍加している。家族との外出も思い思いに楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者と一緒に買い物を出るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話や手紙を送れるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の環境整備に取り組んでおり、快適に過ごせるように取り組んでいる	共用空間であるリビングには、食事用のテーブルが2つとテレビの前にソファが置かれ、利用者は移動しながら過ごしている。壁には、職員と利用者が共に作った折り紙やちぎり絵などを飾り付けて季節感を出し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で独りになれたり、気の合った利用同士で思い思いに過ごせるように配慮し、いろいろ工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と本人と相談して、居心地よく過ごせるように工夫している	居室には、ベッドに季節の布団、防災カーテン・クローゼット・エアコンが備え付けられ、利用者は加湿器・テレビ・タンスなど使い慣れた物を思い思いに持ち込み、居心地良く過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの出来ること、わかることをいかして安全に生活出来るように、わかりやすいしるしを作ったりして工夫している		